

主な意見の概要とそれに対する考え方

(1) 基本構想に関するもの

分 類	主な意見の概要	意見に対する考え方
1. 構想全体を支持する意見	基本構想の内容自体は、意識・目標の高いよいものだと思うので、構想をいかに実現するか、十二分に検討し実現してほしい。	基本構想がより実効性のあるものとなるよう、カリキュラムのさらなる精査や教員の慎重な選考などの準備を進めていきたいと考えています。
2. 構想全体に対する意見	基本構想（案）を読んだだけでも、どこにでもあるような美大を何故設置するのか。	地域の伝統的な文化、生活様式、技術などを掘り起こし、芸術的価値を再評価し、現代の秋田にいかすという特徴的な教育、現代日本に合った価値観に再構成した新しい芸術領域を創造するという意欲的なテーマを基本理念としており、それらの実現によって、独自色の強い大学、グローバルに活躍できるような人材を育成する大学を目指したいと考えています。
	構想力が小さく、低い。世界で一番になれるような人材を養成しようとししないのか。	
	老若男女が安心して“喜怒哀楽”を五感を通して表現し分かち合える市民参加型のオープンカレッジにしてほしい。	「まちづくりに貢献し、地域社会とともに歩む大学」という基本理念に基づき、社会貢献事業を充実させるとともに、開かれた大学となるよう努めていきたいと考えています。
	秋田の職人が後継者不足で断絶しようとしていることに対する構想が何もない。	5つの専攻のうち、ものづくりデザイン専攻では、地域固有の素材・技術・意匠・職人の手わざの再解釈、地方色豊かな新製品の提案をテーマとしており、卒業後の進路の一つとして、そうした能力を持った職人も想定しているところだ。
3. 大学の名称に関する意見	「秋田公立美術大学」で構想している教育内容は、現代における「美術」という言葉の範囲を超えていること、「美術」という言葉が「工芸」を含む意味を持っているという「秋田公立美術大学」の名称の根拠が、現代および未来において通用する理論ではないことから、この名前にした場合、それを聞いた人に、大学の内容を誤解される可能性が高い。	大学の教育・研究内容が主にファインアート、デザイン、工芸を対象としており、「美術」はそれらの分野を包含する言葉として他大学の名称などでも一般的に用いられていることや、ファインアート、デザイン、工芸のうちいずれかに特に重点を置いた教育・研究内容とする訳ではないことから、「美術大学」という名称としています。
4. 基本理念に関する意見	グローバル人材の育成は、具体的に実現不可である。海外の大学に留学させるだけの大きさが必要。	国際社会におけるグローバル化については、美術の分野においても避けられない流れであることから、新大学としても国際的に活躍できる下地となる素養を育む必要性があると考えています。
5. 定員に関する意見	定員が100～120人だと多いのでは。	少人数制による質の高い教育の実現やきめ細かな就職支援等への対応が可能となること、美術系大学を持つ類似規模の他都市の状況等を総合的に勘案し、入学定員は100人としたいと考えています。
6. 地元から多くの学生を入れるべきとする意見	県内高校生をどの程度の割合で入学させるのか。国際教養大のように他県の人が多く入学し、ほとんど秋田のために貢献しない大学であれば必要ない。市の税金を使って4年制にするのだから、極力、秋田市民の入学枠を増やしてほしい。	学生の受入れについては、推薦入試の中に、秋田県内枠および秋田市内枠を設ける方向で検討しており、ご意見も踏まえながら、具体的な人数を検討したいと考えています。

分 類	主な意見の概要	意見に対する考え方
7. 社会人入試を求める意見	成人の学びたい人にも受講生としての門戸を開いたらどうかと思う。	社会人入試については、社会貢献の一環としての意味も含め、実施する方向で検討しているところです。
8. 地域色を強調すべきでないとする意見	秋田という狭い範囲で大学を考えると持続しない。 全国区の大学としての学生募集になるが、一つの専攻にすぎない「秋田の文化・芸術の探求・教育」、「秋田のため」「秋田市のため」という文面が強く違和感を感じる。 4年制のメリットは学生の質の向上と人材育成が主たるもの。全国から学生が集まってくるような魅力あるカリキュラムを作り上げてほしい。	公立大学として、地域からの財政的負担をもって設置することに鑑みると、地域社会とともに歩み、秋田のまちづくりに貢献することを追及することは不可欠であると考えています。 同時に、高等教育機関として大学を設置する意味や、全国から注目され持続可能な大学とすることを考えると、美術大学として新たな芸術領域に挑戦することや、グローバルに活躍できる人材の育成を目指すことも、理念の一つとする必要があります。
9. 地域の特色をいかした大学にすべきとする意見	ローカルな文化、特に秋田で培った伝統技術を学び、地元の企業に就職できる人材を育成してもらいたい。 多様性のある人間形成のためには、地域に根ざし発展的に見据える能力を育む、学びの場が必要になってくる。 西部地区には他に類を見ない学びの場、人間形成に相応しい環境にあることを十分認識しながら新大学を創造してもらいたい。 他美術大学にはない、秋田の特色が色濃く出せるような大学になってもらいたい。	いずれにしても、新大学を設置するうえで、地域への貢献という視点と地域に止まらない存在意義を求める視点の両方ともに重要であると考えており、それらのバランスが取れ、両立できるような基本構想となるよう、記述を精査したいと考えています。
10. 一般的な教育を充実すべきとする意見	専門の技術・技能だけでは、県内に働く場があまりにも少なすぎるので、一般教養を充実させるためのカリキュラムの設定が必要。	4大化に伴い、専門的な教育だけでなく、一般教養も充実したカリキュラムを作成しているところです。また、カリキュラムには「キャリア教育科目」も設け、卒業後の社会的な自立や一般企業への就職へも結び付くような教育内容とする考えです。
11. 教育内容・カリキュラムに関する意見	美術と建築を融合した学科がない。市内の風景が貧困であることから、豊かなまちづくりを考えられる人間を育ててほしい。 秋田の未来のまちづくりを、大学がどのようにして実践的に描いていくつもりなのか、都市計画、建築、土木といったグランドデザインを描くための骨太の知識も必要。 県内の伝統工芸士には優れた人材がいらないことから、より実践的なカリキュラムが必要と考える。 できれば「総合芸術」として、音楽や演劇、映画やファッション、デザイン（建築・設計）の自由な表現から、プロフェッショナルコースまで、3～4年生は、実践&現場活動で「競争・協働」を体験し、創業または就職へ。 映画監督のような創造性に富んだ人材が現れるような学科の設立も願います。	地域文化計画専攻において、景観デザインや建築デザインなどを学べるようにする予定であり、それらの視点から地域資源を有機的に結び付け、まちをプロデュースする力を持った人材を育成したいと考えています。 1学年あたりの定員100人という比較的小規模の大学となるため、あらゆる芸術分野をカバーするような学科・専攻を設けることは難しい状況です。しかしながら、大学が目指す人材育成のうえで有効と思われるようなテーマに関しては、開学後も含め、教養科目など、カリキュラムの一部として検討していきたいと考えています。
12. 優れた教員を確保すべきという意見	教員の質と量を確保してほしい。大学の善し悪しは、教員の質と量。効果を上げるためには費用がかかるのはあたり前だと思う。 技術・実績・指導力に優れた教授を獲得しなければならない。公募による人選は限界があり、あらゆる手段を使ってスカウトしてほしい。	ご指摘のとおり、教員の確保については重要であると考えています。他の同規模の美術系大学と同程度の教員数を確保する予定であるとともに、広く優れた教員を確保するために公募を実施しています。公募により充足できない教員の採用が必要な場合は、推薦により確保することも想定しています。

分 類	主な意見の概要	意見に対する考え方
13. 社会貢献・地域貢献に関する意見	グループ活動にも講師のような形で絵、版画、染色等、指導してもらえたらうれしい。 市と大学主導の年1回の文化行事を秋田市中心で開催してほしい。 大学の運営については、産学官連携による持続的な強力体制を構築していくことが大事。 自らまちに飛び出しまちづくりを考え実践する、そんな気概をもった教員とそれに応える学生がいなければ、まちづくりの中核を担うといっても、市民の実感や共感はないだろう。	基本理念の一つに「まちづくりに貢献し、地域社会とともに歩む大学」を挙げているとおり、新大学においては、社会貢献・地域貢献を重視しており、ご意見も踏まえながら、様々な取組を検討していきたいと考えています。
14. 就職先の確保が重要だとする意見	4年制大学が実現したら、ぜひ地域の雇用拡大を考えてほしい。 卒業後の就職先が確保されていればよいと思う。他県、業界の注目の的となるような運営をしていければ。 地元企業への就職できる人材を育成し、地域社会も受け入れる体制が求められる。 新しいものばかりもてはやさず、伝統工芸などにスポットを当てる機会を増やして、若者たちがそのような業種に就くことに、明確な誇りを持てるような環境作りを。	社会から高い評価を受けるような高い専門性と幅広い教養を身に付けた人材を育成するとともに、企業側の受け皿づくりも重要であると考えています。
15. コスト面に関する意見	この少子化が進む秋田市において、はたして応募があるのか心配。公立である以上税金で維持される。くれぐれも無駄のなきように祈る。	大学として十分な質を確保しながらも、コストが過大にならないよう留意していきたいと考えています。
16. 施設設備に関する意見	自然豊かな大学として、広々とした自然空間が望ましい。大学周辺に木々を植えてもらいたいし、生徒の和気ある姿が見える語らいの場や空間の美が大切。	施設整備にあたっては、美術系大学として極めて高いデザイン性を有する現有施設との一体性・調和に十分留意するなど、自然の豊かさも含め、美的空間を維持していきたいと考えています。
17. まちづくりに対して要望する意見	にぎわいの市にしたい。例えば、外国語の習得をする集まり、他の大学との連携、国外の人との協力関係を強めていくと秋田市発展につながると考える。 4年制大学になったらぜひ、歩くだけでも楽しい、ワクワクするような、他に誇れる美大があることを前面に出したまちづくりをしてほしい。 大学がまちづくりの中核として役割を担うことには、大いに賛同、期待する。なぜなら、大学が教員や学生のためだけに存在し、研究や人材を育成することを目的とするのであれば、今ある市内の大学と差異はないから。	ご意見を踏まえながら、市全体の施策とも連動し、大学をまちづくりの中核としていきたいと考えています。

(2) 基本構想とは直接関係ないもの

分 類	主な意見の概要	意見に対する考え方
18. 4大化そのものに賛成する意見	歴史をいかしたまちを築く第一歩の芸術・文化、最近の長引く不況を考えると、一日も早い開学を目指してほしい。 秋田を活性化するには、若い年代の人口増加が必須であり、4年制大学が増えると大学選択の幅も広がり、秋田に残る人が多くなる。 やはり2年制では、専門的な教育は充実していないのではないかと考えていた。美短は、素晴らしい立地条件と校舎を持ちながら、内容をもう少し充実すればよいと考えていた。 美術大学は芸術・文化をいかしたまちづくりに期待できると考えるので、実施してもらいたい。 2年よりも4年だと、もっと深く美術に対する考え方などを勉強できる。 四年制大学設置は賛成。県内の工芸職人は高齢化してきており、一刻も早い後継者の育成が必要。	基本構想に従って、より幅広い教養や深い専門性を備えた人材の育成、芸術・文化によるまちづくりへの貢献を果たせる大学となるよう、平成25年4月の開学を目指して着実に準備を進めていきたいと考えています。
19. 4大化そのものに反対する意見	卒業後の仕事がどれだけあり、どれだけの生徒が秋田に根をおろして生活できるか、まずはデータを県民に出してみてもどうか。4年制大学にしなければいけないという必要性がわからない。 美短の4年制化に反対。 反対。創造と教育は相反する。美短で創造力をなくした生徒が多くいる。4年制になれば、一番悪い。	秋田の芸術創造を担える人材や、秋田の文化芸術政策を立案・実現できる指導者を養成することを高い次元で達成するためには、短大の2年間という修学期間では不十分であると考えています。 また、就職市場において短大卒業生よりも即戦力となる4年制大学卒業生が求められている情勢にあって、大学で習得した技術や専門性を生かせる職種につけるような力を発揮できるような就職に進ませるためにも、社会で求められている4年制教育は必要であると考えています。 なお、卒業後の就職に関しては、採用ニーズを把握するため、現在、企業に対するアンケート調査を実施しているところであり、集計結果がまとまり次第、公表したいと考えています。
20. 4大化に賛成・反対のどちらとも言えない意見	美術、工芸等を身に付けるためには4年制がよいと考える。ただし、今の子どもたちは何もかも親に頼り切りで、せっかく親がお金をかけて勉強させてもしっかりとした目標を持たずしている子がいる。教育費のことも考えると4年間もと感じるかもしれない。	
21. 大学のPRに関する意見	将来的にも安心できる学校であることについて、多方面の情報メディアを利用した取組を実行しながら進めていった方がよい。	
22. 高等教育制度に関する意見	4年制と決めず、2年間行って、まだ勉強したければ更新するというようなやり方ではどうか。また、仕事をしながら続けて指導を受けられるような窓口の広い学校もあってよいのでは。	
23. 高校教育に対する意見	高校生は大学で学ぶカリキュラムを在学中にほとんど学んでいないため、現高校生に対する指導が大切ではないか。	
24. 市の他の施策に関する意見	施設の値上げやごみの有料化等に市民は苦しんでいる。	